

マンションの進出が続く地域での自治会活動		面談年月
京都市下京区有隣学区まちづくり委員会 大田垣義夫氏		H18年2月
(活動のフィールド) 京都市下京区 有隣学区	H14 まちづくり委員会発足、有隣まつり参加者調査、有隣ふれあい地蔵盆開始、マンション分布状況調査 等 H15 マンション対応マニュアルの作成、有隣マンションフォーラム 等 H16 マンション連絡協議会の検討、子育てサロンの開始 等 H17 地震フォーラム、学生まちづくりセミナー協力 等	
活動内容		
<p>有隣学区は明治元年に下京 15 番区(明治 5 年に 19 区になる)として誕生し、翌明治 2 年有隣校の前身高松小学校が開校した。当時は問屋街として栄え、扇や人形、仏具など伝統産業が古くから栄えてきた。しかし、平成 4 年に児童数減少の為、周辺 7 校と統廃合され、学区の核である有隣小学校は閉校された。</p> <p>有隣自治連合会には 30 の町内会、26 の各種団体など地域・テーマごとの組織が形成され、学区内の様々な自治活動を行ってきた。しかし、近年のマンションの増加による居住形態やライフスタイルの変化などによって、町内会への加入や地域活動に参加する住民の割合が減少し、地域コミュニティの衰退が危惧される。</p> <p>有隣自治連合会では、平成 14 年にまちづくり委員会を設置し、マンション住民との交流を目指した取組を中心に活動している。具体的には、学区のマンションの実態把握(アンケート調査等)や勉強会、町内会向けの「マンション対応マニュアル」の作成、子育て層をターゲットにした「ふれあい地蔵盆」や「子育てサロン」の実施、日頃のお付き合いの重要性をテーマとした「地震フォーラム」の開催などを行ってきた。</p>		
「都市再生の担い手」として事務局が目指した発言等		
<p>これまでは、30代～40代がPTAで活動を経験した後、自治会活動へ入っていたが、小学校の統合に伴いPTAと地域との関わりが薄くなってきた。</p> <p>町内会の中には、建設時からの話し合いによりマンションの入居条件に町内会加盟を入れているところもあるが、入居者が決まる前の取り決めであるところに限界がある。</p> <p>賃貸マンションやワンルームマンションなどの窓口をどう作るのが最大の課題。</p> <p>地域の広報誌ではマンションへの浸透は難しく、地域活動についてイメージできない人達が増えているので、ホームページなどで近所の病院などの生活情報も含めて提供できればと思っている。</p>		
有隣まつり参加者調査	有隣ふれあい地蔵盆	マンションフォーラム(交流会)
		
マンションフォーラム(意見交換会)	子育てサロン「ユューユー」	有隣地震フォーラム
		

インタビュー概要

(活動内容についての説明)

地域の現状

- ・学区内には約2700世帯が住んでいるが、うち一般世帯は900世帯で、マンション世帯は一般世帯の倍あることになる。
- ・マンションのうちワンルームが2/3を占める。最近は一時期に比べワンルームが減り、ファミリー向けが建設されている。
- ・学区内では、かつては若い30代～40代がPTAで活動を経験した後、自治会活動へ入っていた。しかし、小学校の統合に伴いPTAと地域との関わりが薄くなってきた。
(7学区が統合されたため、1学区はPTAから見ると7つのうちの1にしか過ぎない。)
- ・自治連合会(自治連=学区)役員の中では、50代は若い方。役所との会合が平日の昼間であることが多いので自営業の方が多い。しかし、時間は作ろうと思えば作れるものなので、暇な人より忙しい人に頼んだ方がよくしてくれる。
- ・自治連会費は、最初は自治連収入額を確保するため複雑な算出をしていたが、今は統一して以下の比率で各町会に負担をお願いしている。(各町内会費は別に徴収) (一般世帯 1,600円/年 マンション世帯 320円/年) なお、マンション世帯も一般世帯と同じように町内会に入ることを求めている。320円/年は、マンション一棟が一口として町内会に入っている場合の一世帯単価である。
- ・町会長は多くが輪番制で、どんな人になるかわからない。一部の町内会では選挙が行われているが、そこではふさわしい人が選ばれ、責任感を持ってやってくれることが多い。任期は1年が多い。
- ・自治連の会長はこれまで任期はなかったが、長期化するのを改善するため、今の会長自ら規約を改正し5年を上限とした。
- ・自分自身複数の各種団体(自主防災、民協、社協、少年補導、老人クラブなど)の役員を兼務していて、都合のいいように使い分けをしているぐらいなので、各種団体と自治連間の連携は問題ない。
- ・年間行事が固定している各種団体は、団体長にだれがなってもあまり関係がないが、自主防災、社協、少年補導、女性会、老人クラブのような団体だと、団体長の資質に大きく依存される。
- ・NPOとの連携はないし余地もない。社協のボランティアには協力してもらっている。
- ・ファミリー向けとワンルームが混合しているマンションで、地域活動に熱心な方が、ワンルームの学生を引っ張ってきてくれた。マンション内に核になる人がおり、声さえ掛けることができれば、参加してくれる人はいるのだろう。

マンション住民の取り込み

- ・自治連の役員ポストにマンション住民用の枠を規約に明文化した。これまでの付き合いなどから3人を選んだが、1名は出てこなくなった。
- ・一昨年の11月から月1回の子育てサロン(親子で集まれる場所の提供)を始めたら、参加者10数名のうち70%がマンション住民であった。5回、10回というきりの良い時には、読み聞かせや人形劇もやっている。
- ・もっと多くのマンション住民に参加してもらうために、神戸からゲストをお呼びして地震体験を語ってもらう地震フォーラムを開催したが、当時はマンションの耐震問題は関心が低く、一般世帯がほとんどで、マンションの参加はほとんどなかった。
- ・町内会の地蔵盆にはマンションの子ども達も参加してくれている所が多い。
- ・町会の中には、建設時からの話し合いによりマンションの入居条件に町内会加盟を入れているところもあるが、入居者は話し合いに加わっておらず、入居者にとっては押しつけ感が強い。
- ・マンションの町内会費はオーナーが一括して納入しているところや、管理費に含めて徴収しているところ等いろいろであるが、町内会長にはできるだけ世帯ごとに集めるようお願いしている。
- ・まちづくりセミナーに参加してくれた学生から、インターネットで情報を流したらどうかとのアドバイスをもら

った。1年かけて学生等にホームページを作成してもらうようお願いしている。

- ・ マンションの方の体育祭個人種目参加について、町内会長を通さず体育振興会会長に直接申し込むことができるようにしたら、マンションから数名の申込みがあった。

今後の課題・

- ・ ファミリー型の分譲マンションには、管理組合があるため働きかけの窓口は一応あるが、賃貸マンションはオーナーが住んでいる場合を除き窓口さえないため、回覧板も回っていない。賃貸マンションやワンルームマンションなどの窓口をどう作るのが最大の課題である。
- ・ 最近自主防災の取組を進めているが、大きな災害が起きた時に、どこにどんな人が住んでいるかさえわからない状況は、大変問題である。社会福祉協議会の方で高齢者対象の情報がないと昼食会の発送もできない。行事案内のために毎年高齢者調査をしているが、個人情報保護が障害になっている。
- ・ 町内会活動がどんなものかさえイメージできない人達が増えているので、ホームページなどで近所の病院などの生活情報も含めて、地域活動の情報を提供できればと思っている。